30

聿修堂の蔵書目録について

竹内　　尚
日本鍼灸研究会

【緒言】 聿修堂は，江戸医学館を主宰した多紀氏の堂号である．聿修堂の蔵書目録には，国内外に『聿修堂蔵書目』『聿修堂蔵書目録』『聿修堂書目』『聿修堂書目録』など書名を異にする 20 本程が確認されるが，それらの相互関係は明らかでない．本発表では，聿修堂の蔵書目録の諸伝本のうち，早稲田大学図書館所蔵の抄本『聿修堂蔵書目』（ヤ 09-910，以下早大本と略記），国立国会図書館所蔵の抄本『聿修堂蔵書目』（特 1-1808，以下国会 A 本と略記）および『聿修堂蔵書目録』（143-93，以下国会 B 本と略記）の三本について比較検討し，江戸考證医家研究の一端とする．

【早大本について】 不分巻一冊．全七十八葉．四周単辺有界，毎半葉十行，版心白口，上黒魚尾の用箋に書写．外題は「聿修堂蔵書」．目録二葉．三葉目冒頭に「聿修堂蔵書目／東都　丹波元胤紹翁　録」と記し，以下本文．類を経解（内経，難経，傷寒論，金匱要略，字書），本草（附丹薬，食治，農書），診法（附太素脈書），明堂経脈（附内景），傷寒（附傷暑），衆病，眼目口歯，外科，婦人，小児，痘疹，雑説，史伝（附書目），養生，運気，叢書に分かち，全 1195 書目の漢籍を著録．巻末に「此一巻，多紀氏蔵書目也．天保辛卯（1831）冬，借小島家蔵本，謄写了．古田明真記」と記す．

【国会 A 本について】 不分巻一冊．全五十四葉．無辺無界無版心で，毎半葉十二行．巻頭に「聿修堂蔵書目／東都　丹波元胤紹翁　録」と記し，以下本文．類を経解（内経，難経），傷寒論註釈，傷寒證治（附外感），本草（附丹薬），食治，農書，診法（附大素脈書），雑病，婦人科，幼科雑病，幼科痘疹，瘍科，眼目口歯科，明堂経脈，運気，養生，史伝，書目，小学，叢書に分かち，全 1168 書目の漢籍を著録．巻末に「文政庚寅（1830）冬十月」と記す．

【国会 B 本について】 不分巻一冊．全四十九葉．四周双辺有界，毎半葉十行，版心白口，上黒魚尾，下象鼻に「東京書籍館」と刻する用箋に書写．巻頭に「聿修堂蔵書目録」と題し，以下本文．類を本草，経解，傷寒，脈書，證治，方書，婦人，小児，痘疹，外科，眼科口科，養生，鍼灸，説部，叢書，雑書に分かち，全 850 書目の漢籍を著録．撰人，識語等を記さざるも，用箋から明治期の写本と推定．

【考察】 早大本と国会 A 本は，内題，撰者名，経解を冒頭に配する点が一致し，一見相似するが，詳見すると，両書の著録書目の大半は同一であるものの，構成が異なる上に，著録書目の配列には夥しい異同がある．推察するに，両書の祖本は成立段階の異なる別稿本である．目録を配し記載内容が比較的整っていることから，早大本の方がより完成稿に近いと思われる．また，両書ともに著録書目の成立年の下限は，文政八年（1825）であった．多紀元胤の没は文政十年（1827）であることから，その成立は文政八～十年頃となろう．一方，国会 B 本は上記二本より著録書目数が少なく，さらに内題が異なり，撰人を記さず，本草を冒頭に置くなど，一瞥して相違する．国会 B 本中には，文政本は著録されず，下限は文化元年（1804）まで遡る．文政期出現の『真本千金方』や，文政二年購求の明代模刻宋本『重広補註黄帝内経素問』が未著録であることを考え併せると，国会 B 本の祖本は，文化年間から文政初期の成立と推定される．撰人未詳であるが，或いは多紀元簡の撰とも考えられる．

【結語】 聿修堂の蔵書目録についての先行研究である，木場由衣登「江戸考證医家の蔵書目録について」（第 110 回本学会総会）によると，①元胤著の経解冒頭本と，②不記撰人の本草冒頭本の二系統に大別されるという．本発表では，①に属する早大本，国会 A 本，②に属する国会 B 本の比較を行った結果，三本の間に相当の異同が確認された．聿修堂の蔵書目録は，年月をかけて整理・増補されていったもので，その様々な段階で転写されたものが，今日伝わっていると思われる．今後は他の伝本も実見し，それらの相互関係を究明したい．